

編集後記

いよいよ西暦二〇〇〇年がスタートしましたが、ここに新たに『防衛研究所戦史部年報』はその名称を『戦史研究年報』に改め、第三号発行の運びとなりました。この『年報』は、防衛研究所における戦史研究成果の発表の場を設けると共に、所内で実施された戦史関連の研究会等の活動を報告し、さらには当研究所が所蔵する戦史史料の紹介もはかることを目的に、二年前に刊行開始となったものです。安全保障問題の基礎研究としての戦史研究の重要性は言うまでもなく、また、今後益々強まるであろう内外からの情報公開の動きに因應するためにも、こうした発行業務の継続は我々の責務と考えております。

さて、今号は巻頭に平成十一年七月の戦史研究発表会における五百旗頭真教授のご講演記録を収録いたしました。今後とも日本の安全保障にとつて緊要な日米関係につき、その歴史的背景の一端を明らかにされたその内容は、多くの示唆に富むものであると考えます。

「論文」としては戦史部員の研究成果を四篇、内二篇は琉球・沖縄に関するもので、現在の沖縄問題を考える上でその歴史的背景を知る一助となるものと思います。「研究会記録」としては、昨年お亡くなりになった江藤淳氏が平成七年に戦史部で講演下さった記録をまず収録いたしました。この記録につきまして掲載をご快諾いただきましたご遺族に厚く御礼申し上げますと共に、故人のご冥福を心よりお祈り申し上げます。国際研究会の記録としては、平成十一年十月に第二研究部で主催された戦争史研究の権威であるブライア

ン・ボンド教授のご講演記録を収めました。

「史料紹介」につきましては、今号ではじめて原史料の全文掲載（国防方針関連）を一篇実施いたしました。次号以降もこうした史料そのものの掲載については積極的に行いたいと考えております。また、今まで公開されていなかった嶋田繁太郎関連文書は今後の開戦経緯研究に多大に寄与するものであり、陸海軍文書についての紹介記事も陸海軍研究におおいに役立つものであります。

その他、研究会等の実施、戦史資料の閲覧、参考調査などの状況につきましては、例年どおり、活動報告として掲載いたしました。なお、この中で紹介しました安全保障国際シンポジウムの報告内容につきましては、別途一冊の報告書として防衛研究所より発行されております。

最後に、本号発行のためにご協力いただきました方々に厚く御礼申し上げますと共に、この『年報』をますますよいものとして行く上での皆様からのご意見、ご感想、ご批判の程よろしくお願い申し上げます。

（相澤 淳）

戦史研究年報 第三号

平成十二年三月三十一日発行

編集 防衛研究所戦史部

発行 防衛研究所

〒153-8648 東京都目黒区中目黒二二二

電話 〇三―五七二―七〇〇五（代表）

印刷 有限会社 黎明社